

京都工芸繊維大学

京都の産業・文化芸術拠点形成と K16 プロジェクト

連携自治体 京都府・京都市・舞鶴市・京丹後市・綾部市・宮津市・福知山市・与謝野町・伊根町

地(知)の拠点として

千年の都、京都にはものづくりの精神が生き続けており、伝統文化から先端技術まで、幅広い地域産業が育ってきました。本学は開学以来、明治時代の近代産業化から高度成長まで、地域に根ざした実践的な教育研究を行ってきましたが、地域社会がグローバル化などの様々な課題に直面しつつある現在、これまで以上に地元との連携を深めて、地域の産業振興とそれを支える高度技術者の育成に取り組めます。京都の工科大学として、北部においては舞鶴工業高等専門学校と連携し、京都府下の自治体、経済界、企業の協力を得ながら、ものづくり企業が力を発揮でき、地域の魅力あふれる観光・文化芸術の発展につながるような教育・研究をめざします。

教育 - 地域の小中高校や産業界と連携し工学系人材を養成する「K16 プロジェクト」

K16 プロジェクトとは、6・3・3・4年制の学校教育 16年の課程において、地域から求められる能力をどのように身につけていくのか、京都府下の教育委員会や小中高等学校、地元産業界等と連携し

て構築する人材育成モデルです。この能力を地域工学系人材に求められる「工芸コンピテンシー」として開発し、体系的なカリキュラムにより育成するためのカリキュラム改革を行います。具体的には、京都の伝統工芸や先端産業について学ぶ授業科目を必修化するとともに、地元企業等でのインターンシップを充実します。

こうした取組により、①京都の伝統文化を礎とした教養及び地域に根ざしたアイデンティティを有し、②知識基盤社会において変化に対応し地域を牽引する汎用的能力を身につけ、③確かな技術力とプロセス全体を見通すビジョンを持つ高度専門技術者を養成します。

研究 - 工学分野の知的資源を生かした地域課題の解決と新しい産業の創出

・京都府北部におけるものづくり・観光等の産業振興

府北部を活動拠点とする産学官連携コーディネーターを配置するとともに、舞鶴高専とも連携し、ものづくり企業の支援や観光につながるブランドデザインの提案などを行います。

・京都市中心部における文化・芸

術の発信・交流の推進

デザイン系の教員を中心に、商店街等のまちづくり、伝統産業製品のデザインによるブランド化などを支援し、地域文化振興プログラムを推進します。

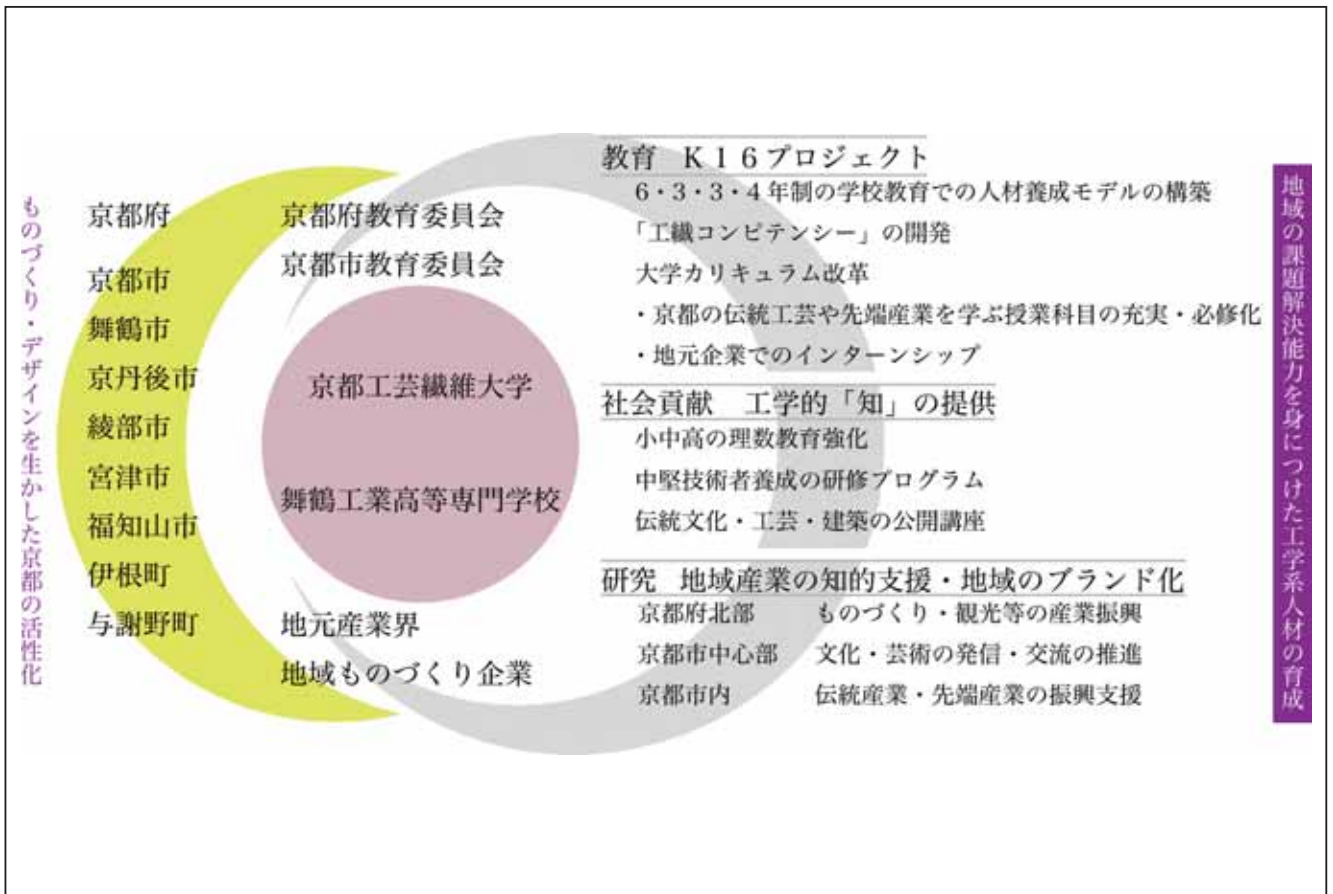
・京都市内における伝統産業・先端産業の振興支援

技術力の高い地域産業のニーズに応えるべく「リージョナルプラザ」を本学内に開設し、ものづくり人材の育成や新たな工芸品の開発による伝統産業の振興をめざします。

社会貢献 - 大学の「知」を地域の企業、学校、市民のみなさまに提供

社会人・企業人向けには、中堅技術者養成のための研修プログラムの開発など、企業の新たなニーズに対応した学修プログラムを提供します。また、京都の伝統文化や工芸、建築などをテーマとした市民向け公開講座を開講します。

京都府下の小中高等学校の理数教育強化を支援し、出前授業・体験学習を充実させます。特に工科大学が設置されていない府北部では地元の理系進学を支援するため、重点的に理数教育支援を行い、大学進学後に地元企業を支える人材を輩出することを目指します。



京都府北部 5 市 2 町では、機械加工や丹後ちりめんの生産現場が縮小する中、技術力強化や観光産業の振興が求められており、京都市内では伝統文化や先端技術を生かした地域・産業振興が期待されています。地域の声を受け止めつつ、関係機関が密接に連携するため、京都府知事をはじめとする関係自治体の首長が参画する COC 実行本部を設置しました。具体的なプログラムの企画・実施については、各地域の課題に対応した「北部ものづくり・観光産業等振興部会」「文化・芸術発信・交流部会」「伝統・先端産業振興部会」及び「K16 推進協議会」の 4 部会に自治体の実践部門、業界団体、大学教員が参画して協働します。



京都府
知事
山田 啓二

京都工芸繊維大学は、110 余年の歴史の中で京都の産業発展と歩みを共にし、地域に根ざした教育研究の実績をあげてこられました。このたびの COC 拠点への採択を機に、地域との連携を一層深め、京都工芸繊維大学が強みとするものづくりやデザインの分野などで、地域の産業や文化芸術の振興に貢献するとともに、地域を支える人材の育成に取り組み、地域振興の中核的な役割を果たしていただくことを期待しています。



京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科造形
工学専攻
修士 2 年生
金 有加

「京の伝統文化と先端」の授業は京都に受け継がれてきた伝統文化とそれらに関わる多様な人々の力で成り立っています。授業を通じて、過去から未来へと続く縦糸と今を生きる人々につながる横糸を結び、歴史を編むという役目が私たちにあることを実感できます。このようなつながりが他者への思いやり、遠い土地、まだ見ぬ未来へ想いを馳せる力をもたらし、自分の可能性や使命に気づくことができる貴重な機会となるのです。

舞鶴工業高等専門学校

京都の産業・文化芸術拠点形成と K16 プロジェクト

連携自治体 京都府（教育委員会を含む）・京都市（教育委員会を含む）・舞鶴市・京丹後市・綾部市・宮津市・福知山市・伊根町・与謝野町

地(知)の拠点として

本校は、京都北部の数少ない高等教育機関として、また、本校の教育理念である「地域に根ざした教育」を実現するためにも大学COC事業で主に次のような取り組みを行います。

(1) 京丹後市を中心とするものづくり産地に対して、産官学協同を進めます。(2) 舞鶴市内の商店街の店舗を本校のランチである商店街ラボとして、商店街の活性化を学生の参加によって図り、学生の地域性向上のため活動を行います。(3) 本校は原子力発電所から至近距離のため、地域社会で原子力防災事業を行います。(4) 京都府や地域の橋梁の老朽化問題に、学生参加で診断・調査について取り組みます。(5) 「天の橋立」など京都府景観地の環境保全を行います。

教育 - 地域アントレプレナー志向の学習

京都工芸繊維大学と連携して同大学がこの事業で行うK16プロジェクトに合わせて教育改革に取り組みます。本校では平成24年度に（独）国立高専機構が試案をまとめた「モデルコアカリキュラ

ム」により、地元社会、産業界と密接に連携しながらPBL、COOP教育などや、学術的な基礎と実践的な技術力を融合させた技術者教育（エンジニアリング・デザイン教育）などにより学生の主体性・自立性などの人間力を育成する教育を実施します。

特に、本校のカリキュラムに地域に関連する科目を必修科目や選択科目に導入します。このことにより、学生が地域を理解し、将来、地域のために活躍することを望むような地域志向となるような教育を行います。

さらに、京都府は京セラや堀場製作所、オムロン、任天堂など数々のベンチャー企業が存在し、起業精神が旺盛な土地柄です。したがって、アントレプレナーを育成する教育により、学生の独創性と創造力を涵養します。

研究 - 地域グローバル化の視点

本校では、下記のような産官学連携研究を行い、地域の期待に応えます。地域のグローバル化とその人材を育成します。

(1) 京都府北部企業と産官学共同研究・技術支援を一層進めます。(2) 企業の開発技術者と本校学生が共同で開発段階から、学生が持つ技術と企画力により製品を

開発・作成します。この事業でも学生が京都市と京都府北部の企業技術者と共に開発段階から参加して、設計、製作を行い、エンジニアリング教育によって企業との産学連携研究開発を行います。(3) 京都府、近隣市町と協力して「橋の長寿命化修繕計画」を作成します。(4) 世界遺産申請を計画中の「天の橋立」など景勝地の環境保全を行います。

社会貢献 - 地域社会へのメッセージ

本校は原子力発電所から至近距離にあるため、京都府を中心とする地域社会で原子力防災の事業を行います。また、近年青少年の理科離れ防止や社会人学び直し支援のため、数多くの出前授業、公開講座を開催します。特に、小中学生を対象にiPadを用いたプログラミング教室を開催します。これは本校卒業生の起業家の低学年から情報教育が重要とのアドバイスにより実施するものです。さらに、舞鶴市と連携して、市内の商店街にサテライトラボを開設します。これらにより学生の地域性などの向上と市街の活性化を図り、地域のまちづくりに貢献します。



京都府においては、府北部におけるものづくり中小企業の事業展開・産業構造の変化・社会資本の老朽化、京都市における文化芸術による地域活性化、京都市の伝統・先端産業の振興等が課題となっています。これらの課題を解決するため、舞鶴工業高等専門学校（Kosen）と京都工芸繊維大学（Kosendai）とが連携・共同し、平成 25 年度文部科学省大学 COC 事業に申請し採択を受けました。これにより、京都府の地（知）の拠点として、教育、研究、社会貢献を通じて数多くの取組を行い、高等教育機関としての責務を果たします。学生が地域を学び、地域のために活躍する地域志向の教育を行います。



舞鶴市
市長
多々見 良三

舞鶴高専におかれましては、豊かな人間性と高度な専門知識を有する技術者を育成する教育の中で、地域の振興や課題解決を図る研究に幅広く取り組んでいただいております。本市が目指す「高等教育機関等と連携した地域づくりの推進」による「活力あるまちづくり」を展開していく上で、「舞鶴高専大学 COC 事業」については大変期待しているところです。今後も、連携協定を軸にまちづくりを推進していきたいと考えております。



建設システム工学科 5 年生
菅野 綾夏

私が 2 年生のときに舞鶴商工会議所青年部が募集した地元ゆかりの細川幽斎のロゴマークに私の案が採択されました。また、今年は舞鶴市がユネスコ世界記憶遺産登録をめざす舞鶴引揚記念館のロゴマークにも採択されました。このようなことから地域のことに関心を持つようになりました。学校では「街づくり」や防災について学んでいます。大学 COC 事業で学習を進め、卒業後は地域のために活躍したいと思っています。

大阪市立大学

大阪の再生・賦活と安全・安心の 創生をめざす地域志向教育の実践

連携自治体 大阪市

地(知)の拠点として

大阪都市圏の多様化し重層化する地域課題に対し、「再生と賦活」、「安全と安心」というアプローチで向き合います。「再生と賦活」という観点からは、地域活性や、地域・文化資源のマネジメントを通じて、持続可能な成長とシビックプライドの回復を目指し、「安全と安心」の観点からは、地域福利の達成や環境や防災への取り組みを強化することで、セーフティネットの再編・充実をめざします。こうしたアプローチを実現する教育カリキュラムとして、全学共通教育にコミュニティ再生副専攻（CR=Community Regeneration）を導入します。地域に入り込み行動力を有した学生の育成に、地域と深くかわるカリキュラムを設置し、地域再生に貢献します。

教育 - 地域志向教育の体系化

地域における複合的な課題と向き合うため、より実践的な人材の育成を目指します。具体的には、大学で地域を知るための地域志向認定科目を全入学生を対象に必修化します。全学生を対象とすることで、地域を学ぶことのすそ野を広げます。

さらに、コミュニティ再生副専攻制度を導入します。初年次教育

において地域実践演習の新設と、2年次・3年次に地域志向専門科目の開放、アゴラセミナーの科目新設、実習インターンシップの実施を行います。地域実践演習では、初年次から地域での実学修的時間の充実を図り、地域課題を「知る」スキルを習得します。地域志向専門科目では、専門的な知識を深め、「分析する」スキルを習得します。アゴラセミナーでは、地域における実践家と交流し、地域課題を「見出す」とともに「伝える」スキルを習得します。実習インターンシップでは地域に出て「行動する」スキルを習得します。これらを通じて、地域と「総合・協働する力」を育成します。

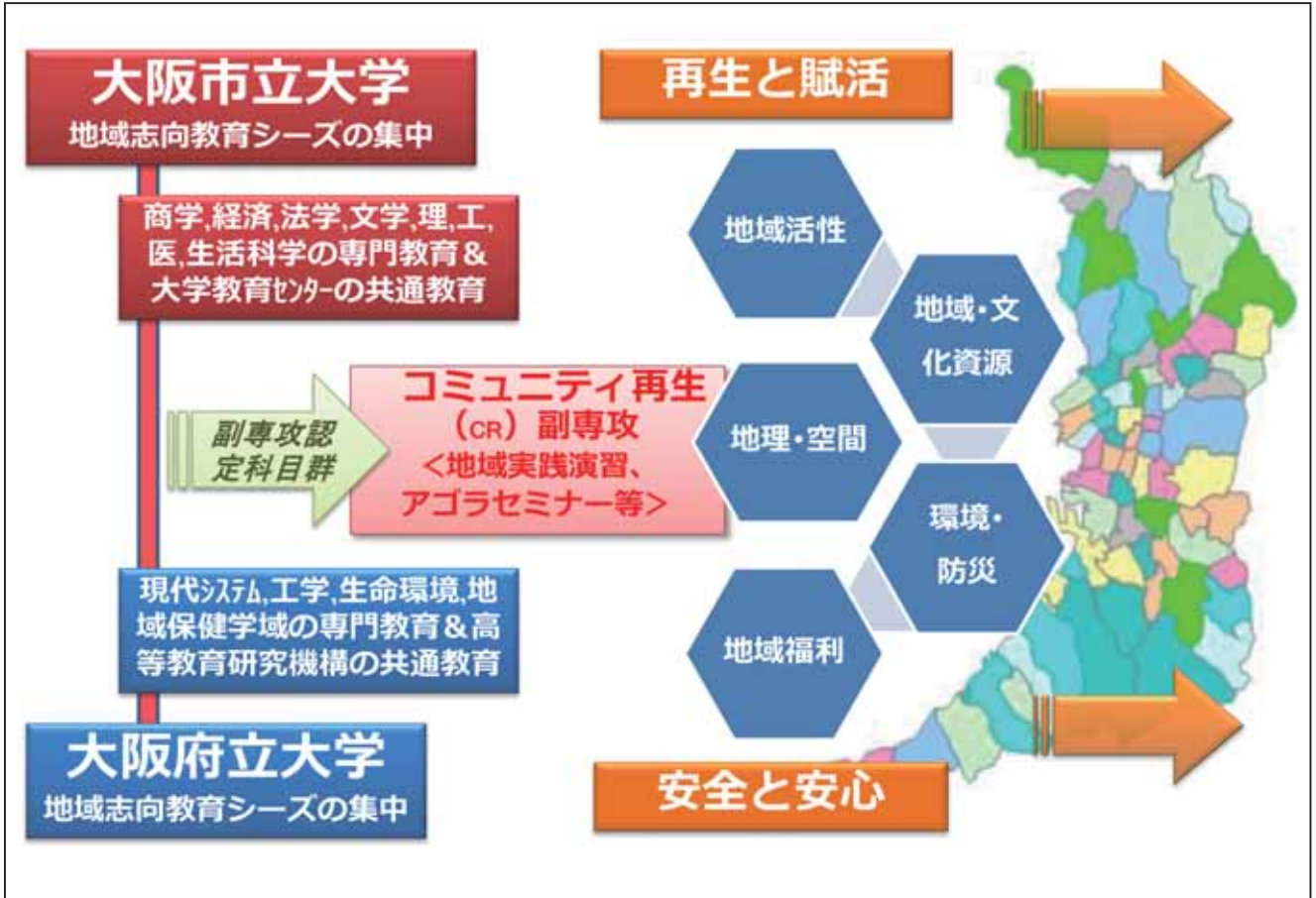
研究 - 都市研究の伝統に立脚した地域のシンクタンク創生

都市大阪を背景に大阪市立大学の都市研究の伝統が培われてきましたが、その重点領域がCOC事業が立脚する5分野に反映されています。研究の資源としての市内現場サテライトも含め、研究実績の蓄積をCOC事業において地域に還元していきます。地域活性においては、コミュニティを支える商店街や町会など地域ネットワークの再生、地域・文化資源では、芸術・文化マネジメントによるコミュニティ再生、地理・空間においては、参加型まちづくりや建築

ストックの活用、防災・環境においては、災害知の社会実装にもとづく地域の安全・安心の実現、そして地域福利では、地域のセーフティネットづくりやその担い手のNPO研究が果敢に進められます。

社会貢献 - 地域と大学の相互的連携と総合的發展

「再生・賦活、安全・安心」をテーマに学部横断的な分野を形成し、地域課題に向き合います。地域との対話・交流の場で与えられた、見出した課題を、地域での実践家を交えた教育・研究を通じて、相互の人材育成を強化することにつなげていく仕組みを構築します。地域との相互の人材交流や研修制度等も含め、地域の実践家のレクチャーを一般向けに公開することも視野に、既存の公開講座はもとより、地域のリカレント教育の充実を推進します。地域との場となる、CRテーブルが機能することが、ひいては地域社会と人材育成の強化につながり、地(知)の拠点と呼ぶにふさわしいプラットフォームを形成することで地域と大学の総合的發展を生み出します。



大阪市の地域課題を5つの分野からアプローチします。大阪市内でも各区は多様でそれぞれの問題を有しています。大阪市の行政の再編成の中で、各区の独自な取り組みが進められる中、大学と地域との連携を積極的に推し進めています。Community Regeneration（地域再生）を軸に、地元の住吉区や、住之江区、西成区を始め、いくつかの区とすでに連携協定を結び、地域活性、地域・文化資源の利活用、防災、福祉の向上などの観点から幅広く活動しています。地域と大学のそうした出会いの場をCRテーブルとして整え、教育カリキュラムと連動させながら、今後大阪市の各区との連携体制を一層進めていく予定です。



大阪市福祉局
局長
西嶋 善親

地域でのつながりの希薄化が進み、大阪市においても、地域の特性を活かし市民生活の安全・安心を支える福祉のコミュニティづくりが重要であります。大阪市立大学の教員、学生の皆さんには、現場に入り地域と連携しての調査や提言を行っていただくなど、地域の福祉、まちづくりの推進に多大な協力をいただいています。COC事業を通じて、そのマンパワーを活かし、地域の課題解決や活性化がさらに進むことを願っています。



大阪市立大学文学部地理学教室 2 回生
竹村 ふみ

2 回生のときに野外調査実習で、地域の子育てのネットワークの形成に関して、多くの方々に聞き取り調査を行いました。現実を識り、学ぶことが多くありました。COCで導入される科目は、他学部の学生と、また、地域と交流、対話など主体的に学ぶという仕組みがされており、行動力や学識がしっかりと身についていくと思います。多くの学生が地域で活躍されることが期待される新制度は、私にとっても魅力的と感じます。

大阪府立大学

大阪の再生・賦活と安全・安心の 創生をめざす地域志向教育の実践

連携自治体 大阪府・堺市・岬町・河内長野市・寝屋川市

地(知)の拠点として

大阪再生に向けた地域志向教育拠点の整備をめざし、その教育拠点として「コミュニティ再生副専攻(CR副専攻)」を設置し、地域志向教育の資源の集中を図ります。この副専攻では、「再生と賦活」の観点からは、持続可能な成長とシビックプライドの回復を、「安全と安心」の観点からはセーフティネットの再編・充実のアプローチ設定を行い、二つの地域課題に取り組む教育拠点の形成を図ってまいります。また、地域を教育プログラムに取り組むことで、大学の教育の質的改善を実現し、教育、研究、地域貢献の一体化を図ると共に、多様化、複合化する地域課題に対し、主体的に取り組む、解決の糸口を切り開くことができるような人材の輩出をめざします。

教育 - 地域課題を発見、解決できる人材の育成をめざし、実践的教育の充実を図る

複雑化、重層化する地域課題に対し、初年次より共通教育で地域実践演習を取り入れ、主体的に課題と向き合い、個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力の引出し、さらに鍛える双方向の講義、演習、実習などによる主体的な学修の経験を重ねてまいります。また、地

域課題の性格上、専門領域を超えた協働は不可欠であり、大阪市立大学との教育連携の強化、推進を図り、複数の学問的視点から学び、教員の集団的な指導・教育体制により、多様な領域の専門的知識の習得、総合化する「場」を提供していきます。具体的には、大阪市立大学での地域志向科目の全学必修化、共通教育のカリキュラム充実、地域実践演習「GATSUN」の導入、専門教育における学部横断的な副専攻の新設、現場との交流、学習成果の地域へのフィードバック等を行い、最終的に地域で実際に解決策を展開できる実践力を養う、領域横断的教育と社会貢献を合体させた「アゴラセミナー」の開講を実施していきます。

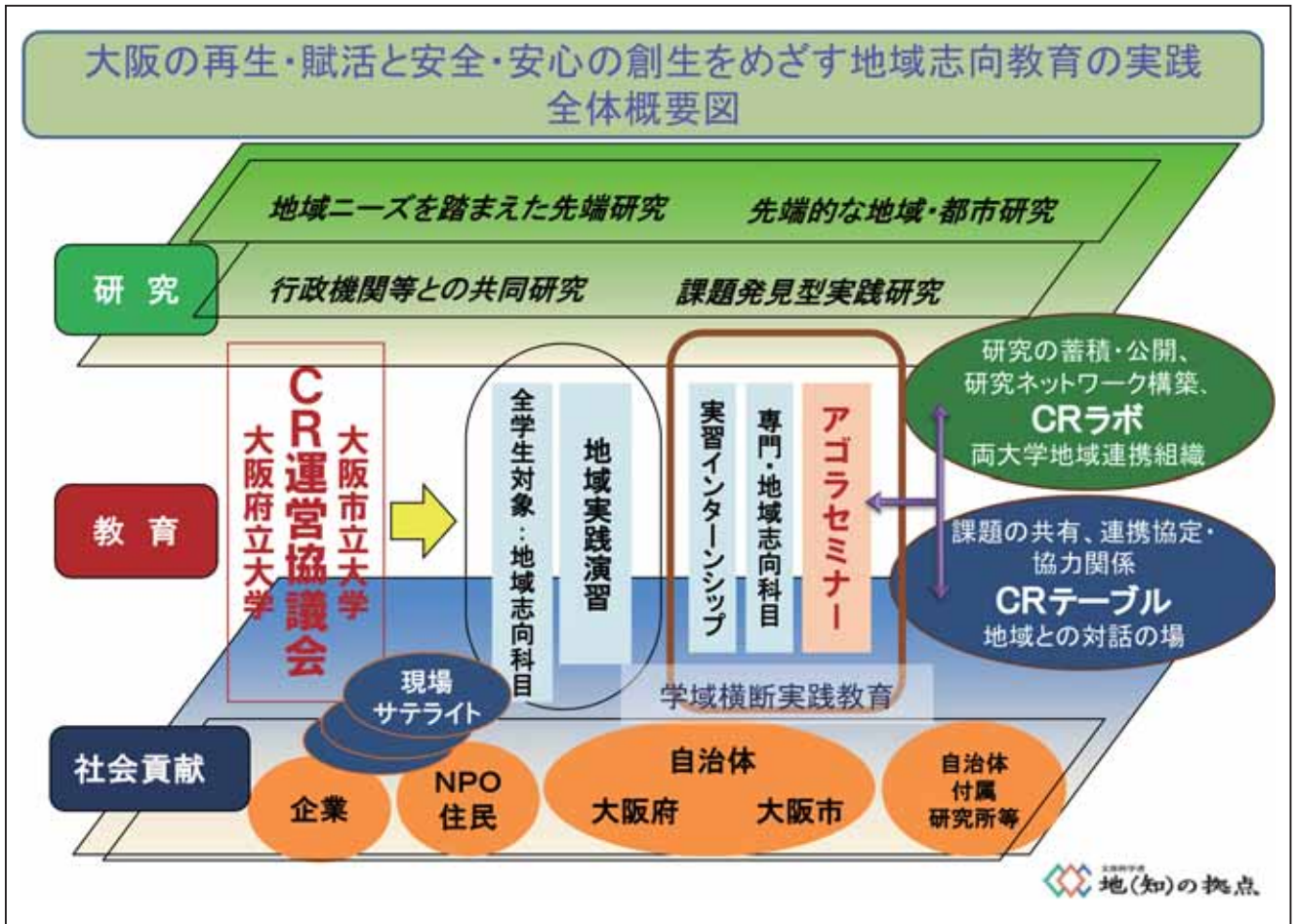
研究 - 地域のシンクタンクとして、教育への還元や研究成果を活かした政策提言を行う

本「地域のシンクタンク」をめざし、先端的・実践的研究の蓄積とその可視化・地域研究の拠点化を図り、教育への還元や研究成果を活かした政策提言を行います。外部資金とマッチングさせながら、先端的研究と実践的研究を実施し、地域志向研究経費の活用により、学生主体のフィールドでの調査研究や具体事業の試行・効果検証・改善案の提案(PDCA)等を領域横断的に実践してまいります。アゴラセミナーは、教育・研究・

社会貢献の一体的展開として位置づけ、研究は地域研究のプラットフォームとしてCRラボを実現していきます。これら研究成果をもとに、「大阪への提言」の発信をシンクタンクとして積極的に推進してまいります。

社会貢献 - 教育・研究と一体化した交流の場として、地域を機能させ人材を育成する

地域との双方向の関係のもと、教育・研究・社会貢献の一体化による応える(リアクティブ)大学をめざします。それを実現する機関として、領域横断的な教育・研究と社会貢献が一体化した交流の場としてのアゴラセミナー、現場を体験する交流と学習の場としての現場サテライト、ステークホルダーが集結し、地域との連携・対話の場としてのCRテーブルを機能させ、地域の人材の育成を強化するとともに、現場での社会貢献活動のプラットフォームにしております。アゴラセミナーとCRテーブルは主に世代間交流促進と地域振興策検討等を推進、現場サテライトはボランティア活動や自然環境保護活動等を実践するプラットフォームとして活用してまいります。



持続可能な成長とシビックプライドの回復、「安全と安心」のセーフティネットの再編、充実の2大課題に主に取り組んでいます。自治体との連携については、これまで設立団体である大阪府、包括連携協定を締結している堺市、岬町、河内長野市、寝屋川市を始めとする地元自治体と地域のシンクタンクをめざし多様な取り組みを行っています。特に、地域環境では環境副専攻を設置し、自治体等からも講師を招聘、市民にも講義を公開しています。これら自治体との連携やノウハウを活かし、他の地域課題についても、自治体も参加するCRテーブルを設置し、意見交換や協議をもとに解決方策の実践を行ってまいります。



大阪府政策企画部企画室
室長
栄野 正夫

大阪においては、人口減少・超高齢社会の到来、グローバル化の進展による都市間競争の激化を背景に、様々な課題への対応が迫られています。そうした中、「大阪の再生・賦活と安全・安心の創生」の実現に向け、地域志向を持つ学生を育成し、地域再生の拠点をめざす大阪府立大・市立大のCOC事業に、連携自治体として大いに期待しています。大阪の再生につながる教育研究活動となるよう両大学としっかり連携していきます。



人間社会学部 社会福祉学科 3年生
和田捺希 大畑沙弥香
伊藤亜弓 小野愛梨

私たちは、白鷺夢テラスの「団地再生プロジェクト」に関わり、人々のつながり作りに貢献できればと思って活動を始めました。季節の催しや食事会・カフェを計画・実施し、人々が交流できる場を作り、学生が加わることで団地を活性化したいと考えています。今回の事業化で、全学を巻き込んだ活動になり、学生だからできる学生目線の活動が大きく広がることを期待しています。私たちも、もっともっとチャレンジしていきます。